

## 2 実践事例（3）

# 小国町立小国小学校

### 研究の目的

小国町では、これまで町独自に「国際・情報」の特設教科を設け、情報分野では本町独自に作成した「情報教育指導カリキュラム」に沿った実践を推進し、情報活用能力と情報モラルを身につけた児童を育成してきた。また、情報機器（電子黒板、タブレット、デジタル教科書等）の効果的な活用の仕方について研修を深め、学習活動の充実と確かな学力の定着に努めてきた。これらの取り組みを、GIGAスクール構想に沿って、情報機器を活用することで、コミュニケーション能力や思考力・判断力を身につけた児童を育てることができるようにしていく。そして、新たな授業づくりが展開され、日常の授業改善につながるようになっていく。

### 実践紹介

#### 特定の教科等において、より効率的・効果的な活用例

##### 【算数】

##### 【棒グラフを操作して並び替えることで、表示順序を整える良さを発見する場面】

- 見やすい棒グラフを考えるために、授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」を使用し、個々のタブレットに送付された棒グラフのデータを操作する活動を取り入れた。グラフをデジタル化したことで操作活動が容易になり、児童は試行錯誤しながらグラフを整理することができた。数の多い順に並びかえたグラフが見やすいことに気づくことができ、本時のねらいに迫ることができた。



##### 【理科】

##### 【1年間の植物の観察記録をポートフォリオにすることで、季節ごとの様子の変化を把握する場面】

- 校庭の木々の季節ごとの様子を観察し、「ロイロノート・スクール」でデジタルの観察記録を作成した。個々に写真を撮ることで、それぞれの発見に応じた記録ができるとともに、これまでの紙ベースの観察記録よりも、短時間で正確な記録ができた。そして、季節ごとの写真をつなぐことで、季節ごとに変わる木々の様子を容易に把握することができた。



・葉っぱが、茶色でした。  
・葉っぱが、枯れている所もあったし、散っている所もありました。

##### 【体育】

##### 【個々の技を動画で記録し、それぞれの跳び方の課題を解決する場面】

- 跳び箱を跳ぶ様子をタブレットで撮影し、技の出来具合を確かめた。動画があることで、何度も見直ししながら個々の課題を設定することができるとともに、児童同士で跳ぶためのアドバイスをし、技を高めることができた。また、タブレットのスロー再生機能を使うことで、児童はより詳しく自分の動きを知ることができた。教師もその動画を通して児童に動きのポイントを指摘し、支援や評価に生かすことができた。



## 教科等によらない汎用的な活用例

### 【一斉学習】

- 導入の場面でインターネットやデジタル教科書を利用し、動画や写真を提示して児童の興味関心を高めることができた。Google マップのストリートビューやバーチャル映像を利用するなど、児童が実感を持てるような提示をすることで、より学習への興味関心を高めることができた。



### 【個別学習】

- 調べ学習に、NHK for school の動画クリップを活用した。学年、教科、単元、キーワードなどで絞って検索できるとともに、学習指導要領に沿った内容の資料になっているために、それぞれの課題に合った内容を短時間で調べられ、効果的に学習ができた。映像と音声、テキストを通して情報を得られるために、児童はより理解を深めることができた。
- 手本となる動画を撮って共有し、必要な場面で児童がタブレットで自由に見られるようにした。自分のタイミングで何度も見ることができると、個々の練習が容易になり、習熟を図ることができた。また、コロナ禍でゲストティーチャーの来校や児童たちとの接触が制限させる中、お話を動画で記録することで何度も学習に使うことができた。
- 個々に自分の学習の自己評価ができるように、タブレットで自分の動画を撮影したり、振り返りを音声で記録したりした。技能教科では、児童が技の様子や表現活動の様子を撮影したものを教師に提出することで、教師も確かな評価をすることができるとともに、パフォーマンス評価に使う授業時間の短縮ができた。



### 【協働学習】

- 一人学びの成果をタブレットの画面に表示してグループで説明し合い、その後、電子黒板に表示してクラス全体に説明するようにした。「ロイロノート・スクール」を使い、テキストカードのスライド機能や描画機能でポイントを示しながら説明することで、相手意識をもった言語活動につなげることができた。
- 個々の学習やグループの学習の様子を、タブレットを使って動画で記録し、課題設定や学習状況の分析や振り返りに活用した。話し合いの様子を記録した場面では、話し合いをしている時の声の大きさや表情などから、自分たちの課題を見つけていた。グループごとにその動画を見て意見を交換したり、見直ししながら感想を出し合ったりするなど、動画のよさを生かして学習することができた。



## 成果・次年度に向けて

- 「誰でも」「どの学級でも」「どの教科でも」をキーワードに、ICT機器を活用してきた。デジタル教科書や電子黒板、書画カメラの授業での活用が日常的に行われるとともに、タブレットを使用した授業実践が増えてきた。教師や児童のICT活用スキルが高まっている。
- 交流場面で写真や映像を使ってわかりやすく説明するなど、タブレットや電子黒板を言語活動で有効に使うことができた。ICT機器を使うことで、表現することが苦手な児童も意欲的に活動する姿があった。
- ICT機器を使う時間を多く割いてしまいがちになるため、1時間の授業の中で、ICT機器を使う時間と子供たちが交流する時間を両方確保できるように指導過程を仕組みたい。今後は、「ICT機器を授業で利用する」から「学力向上につながるICT機器の活用」になるよう、ICT機器の出番を吟味し、学力向上を図る必要がある。